デイケア ひだまり通信 VOL. 10

心に病をもちながら生きて行くこと。あまり想像がつかないことではないでしょうか？
ましてや『働く』となると・・・・。しかし私達は“その人なりの社会参加”というコンセプトのもと、就労について日々前向きに取り組んでいます。　　デイケアスタッフ一同

『病気で苦しんでいた頃から、プリザーブドフラワーという就労に出会うまで』

ペンネーム　Ｊ子

私は最初、病気になったのが25、6歳のときです。息が苦しくなり、幻聴が聞こえるようになりました。

20代の頃は夕方や夜の10時頃に発作が起きて、注射を打つほど苦しかったです。31歳で結婚してからは、発作は頻繁に起こるのですが、注射を打つまではいきませんでした。

最初に一本松すずかけ病院に入院したのが2年前の3月でした。入院するまでは他の病院から転院してきたのですが、家で寝てばかりいて昼間は寝て過ごしていました。洗濯は自分でしていましたが、その他のことは全部親任せでした。親に反抗したり、わがままなことをいって困らせていました。祖母の葬儀にも出られず、その3日後に入院しました。

入院してからはスタッフのみなさんや同室の人から親切にしてもらい、ミーティングなどに出席して自分の意見が言えるようになりました。

デイケアに通所するようになってからは薬の副作用もあり、初めは眠くて、体もだるく、オーディオルームで寝てばかりいました。

そのうち何かしようと考え、ロールピクチャーをはじめ、だんだんスタッフの方ともうちとけられるようになりました。その他にも手話やミニゴルフをしました。手話は良い経験になりました。

今年の4月頃、担当スタッフからミニサボテンの（フラワーロードの活動で）ラッピングをしてみないかと誘われて、自分なりに工夫しながらスタッフのお手本を見てやってきました。6月から就労にしていただいて、プリザーブドフラワーを作るようになりました。

プリザーブドフラワーに出会って人生が変わりました。だんだん上達して、作った作品が売れるようになって販売の楽しさも覚えました。8月の中旬、夏は生産が間に合わないほど売れて、自分の作ったお花が人を幸せにしているんだと思えるようになりました。

今お給料で月に1回ですが、お花のお稽古に行けるようになりました。これからもがんばっていこうと思います。

それから週末には家に帰って、家族とコミュニケーションをとるようにしています。どうぞご家族の方も1～2ヶ月に1日や2日でも良いので、お見舞いに来て患者さんと対話を持たれてください。